

魅力ある地域づくりに関する特別委員会 議事次第

令和6年5月23日(木)
午後1時30分～
於：第7委員会室

1 開 会

2 中間報告

3 委員会活動のまとめ

4 その他

5 閉 会

魅力ある地域づくりに関する特別委員会 出席要求理事者名簿

【総務部】	
自治振興課長	山 崎 遼 太 郎

【健康福祉部】	
地域福祉推進課長	杉 本 圭 哉

【総合政策環境部】	
※ 総合政策環境部副部長 (子育て社会推進監付理事兼務)	石 澤 雄 一
地域政策室長	北 村 哲 也
※ 地域政策室企画参事 (北部担当)	古 田 良 明
地域政策室企画参事 (中部担当)	万 所 ル ミ
地域政策室企画参事 (南部担当)	吉 田 宏 則
大学政策課長	河 野 勉

【商工労働観光部】	
※ 中小企業総合支援課長	田 村 弘 之
観光室長	西 田 剛

【農林水産部】	
農村振興課参事	野 田 敦 司
経営支援・担い手育成課長	小 塩 佳 市

【文化生活部】	
文化生活部副部長 (スポーツ・文教担当)	川 崎 浩 孝
※ スポーツ振興課長	曾 我 学

【建設交通部】	
交通政策課長	笹 井 淳

【公安委員会】	
※ 交通規制課長	橋 本 昌 史

(計 16 名)

※ 議事内容に応じ、必要な理事者を適宜追加

※ 新任理事者

令和6年5月 日

京都府議会議長 石 田 宗 久 殿

魅力ある地域づくりに関する特別委員長 青 木 義 照

魅力ある地域づくりに関する特別委員会中間報告書

京都府議会議規則第46条第2項の規定により、令和5年5月府議会臨時会閉会後から現在に至るまで、本委員会が調査及び研究してきた状況について、別紙のとおり中間報告いたします。

(別紙)

魅力ある地域づくりに関する特別委員会中間報告書

1 本委員会の設置目的

大学の知と学生の力を取り入れた地域活性化、観光やスポーツを通じた様々な交流機会の拡大など、地域のポテンシャルの向上を目指した魅力ある地域づくりに関する施策について調査し、及び研究する。

2 本委員会の活動状況

(1) 委員会の開催について

- 令和5年6月15日、第7委員会室において、関係理事者から所管事項に係る事務事業概要について説明を聴取した。また、今期の委員会運営方針について協議を行った。
- 令和5年7月3日、第7委員会室において、「交流と連携による活力ある京都の実現について」をテーマに委員会を開催し、関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取し、これに対する質疑を行った。また、「京都府が目指す魅力ある地域づくりについて」をテーマに委員間討議を行った。
- 令和5年9月29日、第7委員会室において、京都府立大学 京都地域未来創造センター センター長・公共政策学部 教授 川勝 健志 氏を参考人として招致し、「大学・学生の力を生かした地域活力の共創について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、京都府立大学の地域貢献活動について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和5年12月19日、第7委員会室において、学校法人立命館副総長 立命館大学副学長・立命館大学スポーツ健康科学部 教授 伊坂 忠夫 氏をオンラインで参考人として招致し、「健康づくりやスポーツを通じた地域社会の活性化について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、「人生100年時代のまちづくり」に向けて説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和6年3月19日、第7委員会室において、東京大学公共政策大学院交通・観光政策研究ユニット 特任准教授 三重野 真代 氏をオンラインで参考人として招致し、「多様なモビリティの活用を通じた社会課題の解決について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、グリーンスローモビリティを中心とした国内外の取組について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。また、今期の所管事項

の調査を踏まえ、総括的な委員間討議を行った。

- 令和6年5月 日、第7委員会室において、_____
-

(2) 管外調査の実施について

以下の取組について調査を行った。

- 調査日：令和5年8月22日

調査先：宇都宮大学地域デザイン科学部附属地域デザインセンター
(CRD) (栃木県宇都宮市)

調査事項：地域デザインセンターを中心とした地域連携の推進について

宇都宮大学では、学内資源を見直して選択と集中を行い、各地域の強みを活かしたまちづくりを支える人材を育成するため、平成28年に文理融合した新学部「地域デザイン科学部」を設置し、国立大学として地域活性化の中核的拠点となる使命を果たすための機能を強化した。地域デザイン科学部では、公共政策、福祉のまちづくり、都市計画、防災といった「まちづくり」に関わる分野横断の幅広い知識と専門技術を文系理系の枠にとらわれず創造的に学べ、地域の課題を理解し、各地域の強みを活かしたまちづくりを支える専門職業人（まちづくりのプロ）を養成している。また、地域デザインセンターでは、地域デザイン科学部の附属機関として、地方自治体、企業、NPO等の多様な主体との連携・協働のコーディネーションを行う機関であり、地域に根差した研究や教育を支援・推進することで地域社会に貢献している。

地域デザイン科学部では、栃木県内の地域パートナー（自治体や団体等）が抱える地域の課題に対し、地域探索やヒアリング調査などを実施し、収集したデータを分析して、問題の明確化や地域の課題に対する解決策を提案する地域プロジェクト演習を行っており、①地域パートナー、②地域デザイン科学部教員、③地域デザインセンターの3者が連携し、学生の演習をサポートしている。地域デザインセンターでは、教員を中心とした共同研究や学生の地域活動の支援を行うほか、教育面だけでなく学生の地域活動が多様化していることから、学部学生を中心とした地域デザインセンター・ユースを設立し、地域や産業界と連携した地域連携プロジェクトを推進するとともに、学生による相談・コーディネートや学生目線の情報発信、学生のための研修・勉強会などを行っているとのことであった。

- 調査日：令和5年8月22日

調査先：栃木県総合運動公園（栃木県宇都宮市）

調査事項：とちぎ国体のレガシー継承を通じた地域活性化について

栃木県で令和4年に42年ぶりに開催された第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」及び栃木県で初めて開催された第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」では、全国から来た多くの選手、関係者、観客をボランティアや民間団体、企業などの力を結集し出迎え、「夢を感動へ。感動を未来へ。」のスローガンどおり、未来につなぐ大会となった。

これらの有形・無形のレガシーを継承し、スポーツを活用した地域活性化を推進するため、「とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略」を策定し、東京2020オリンピック・パラリンピック及びいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催によるスポーツに対する県民の機運向上や県民総スポーツの推進拠点である総合スポーツゾーン（栃木県総合運動公園）の完成、全国的に見ても豊富なスポーツ施設やプロスポーツチームの状況などの強みを活かしたスポーツイベント・大会・合宿等の誘致やスポーツアクティビティを目的とする来県増加など、スポーツツーリズムによる地域活性化を推進している。

また、令和5年7月31日には、これらの有形・無形のレガシーを継承するため、官民連携の栃木県スポーツコミッションを設立し、スポーツツーリズムを推進し、特にスポーツを通じた地域活性化と県内外の交流人口の拡大に取り組むとのことであった。

○ 調査日：令和5年8月23日

調査先：一般社団法人奥むさし飯能観光協会

〔現地視察：喜多川キャンピングベース〕（埼玉県飯能市）

調査事項：森林の間伐対策問題とサステナブルツーリズムの推進について

飯能市は、森林が面積の75%を占めており、全国の森林エリアと同様、森林が徐々に荒廃する中、間伐対策が課題となっている。一方、林業従事者は減少傾向にあり、今後、森林を維持管理し、次世代に継承するため、観光から何かアプローチできないかという観点から、一般社団法人奥むさし飯能観光協会では、観光庁のサステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業を活用し、継続性の高い間伐対策プログラムの造成と既存顧客の会員組織化（オーナー制度）に取り組み、間伐対策プログラムとキャンプ場利用の定期利用（サブスクリプション）の実現によって、年会費や法人・教育機関への研修コンテンツの販売収益等による事業の収益化を目指している。

観光コンテンツを構築する上では、平成21年に全国で初めてとなるエコツーリズム推進全体構想の認定を受けたエコツーリズムで培った経験とノウハウをベースに、マーケットイン（顧客ニーズに沿った商品開発）の目線で既存資源を見直すとともに、在宅ワークの増加等によるメンタルヘルス対策の増加傾向にも着目し、これまでの単発来訪から継続来訪につながるプログラムとして、

従来、一般には門戸を広げていなかった伐採・加工・植樹等の森林事業者のルーティン業務を体験する間伐対策プログラムを造成した。

「100年続く森を育てるための、間伐を知る」をテーマに川上ノ森OWNER'S CLUBを始動させ、令和5年2月から会員の募集を始め、今年度は受入施設の拡充や受入体制の整備などに取り組むとのことであった。

3 本委員会の所管に係る主な動き

- 令和6年1月4日、北近畿タンゴ鉄道生活交通改善事業計画に関する協議会は、将来にわたって安心・安全で持続可能な鉄道の活性化・再生を計画的に図っていくため、「京都丹後鉄道沿線地域公共交通計画」を策定した。
- 令和6年1月9日、国土交通省は、移住・二地域居住等促進専門委員会において、移住・二地域居住等の促進に当たっての課題、対応の方向性、具体的な取組事項等を取りまとめた。

4 残された主な課題

本委員会の設置目的に掲げられた諸課題について、調査及び研究を進めた結果、なお引き続き調査及び研究を要する次のような課題が残されていると考える。

- 地域内外における交流やつながりについて
- 地域の魅力の強化・再発見と地域と調和した持続可能な観光地域づくりについて
- 住み続けられる地域づくりについて
- ミュージアムを中心としたまちづくりについて

魅力ある地域づくりに関する特別委員会 活動状況

(令和5年5月～令和6年5月)

年月日	区分	主な内容
5. 5.26	委員会	1 委員長の選任 2 副委員長の選任 3 副委員長の順位
6. 15	正副委員長会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 本日の委員会運営
6. 15	委員会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 所管事項に係る事務事業概要 4 今期の委員会運営方針 5 今後の委員会運営
6. 22	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
7. 3	委員会	1 所管事項の調査 「交流と連携による活力ある京都の実現について」 2 委員間討議 「京都府が目指す魅力ある地域づくりについて」 3 閉会中の継続審査及び調査 4 今後の委員会運営
8. 22 ～23	管外調査	▷ 宇都宮大学地域デザイン科学部附属地域デザインセンター（CRD） ▷ 栃木県総合運動公園 ▷ 一般社団法人奥むさし飯能観光協会
9. 20	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
9. 29	委員会	1 所管事項の調査 「大学・学生の力を生かした地域活力の共創について」 参考人：京都府立大学 京都地域未来創造センター センター長 公共政策学部 教授 川勝 健志 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
12. 4	正副委員長会	1 今後の委員会運営
12. 7	委員会	1 副委員長の選任 2 副委員長の順位
12. 8	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
12. 19	委員会	1 所管事項の調査 「健康づくりやスポーツを通じた地域社会の活性化について」 参考人：学校法人立命館副総長 立命館大学副学長 立命館大学スポーツ健康科学部教授 伊坂 忠夫 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営

年月日	区分	主な内容
6. 3. 15	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
6. 3. 19	委員会	1 所管事項の調査 「多様なモビリティの活用を通じた社会課題の解決について」 参考人：東京大学公共政策大学院 交通・観光政策研究ユニット 特任准教授 三重野 真代 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
6. 5. 23	正副委員長会	1 臨時会中の委員会運営
6. 5. 23	委員会	1 中間報告 2 委員会活動のまとめ ※発言内容は別紙のとおり

委員会 8回
正副委員長会 7回

管外調査 1回（2日）

魅力ある地域づくりに関する特別委員会 管内外調査実施状況

1 管外調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 8. 22 ～23	<ul style="list-style-type: none"> ▷ 宇都宮大学地域デザイン科学部附属地域デザインセンター（CRD） <ul style="list-style-type: none"> ・地域デザインセンターを中心とした地域連携の推進について ▷ 栃木県総合運動公園 <ul style="list-style-type: none"> ・とちぎ国体のレガシー継承を通じた地域活性化について ・施設視察（日環アリーナ栃木、カンセキスタジアムとちぎ） ▷ 一般社団法人奥むさし飯能観光協会 <ul style="list-style-type: none"> ・森林の間伐対策問題とサステナブルツーリズムの推進について ・現地視察（喜多川キャンプベース）